

国の不合理な措置に対する東京都の主張

- 地方消費税の清算基準の見直しに向けた反論 -

平成29年11月 東 京 都



知ってください!

東京都のこと!



見やすくまとめました!

- 度めくってみてください

ハリーくん

奪われ続ける都民の税

✓ 都は、国による不合理な税制度の見直しにより、

10年間累計で2.2兆円もの巨額の財源を奪われている

2.2兆円あれば…



都の**高齢者施策や子育て支援**に係る実行プランの主要な政策目標を達成可能

6万人分の特別養護老人ホームの建設費、 7万人分の保育施設の建設費・運営費(10年間分)に匹敵





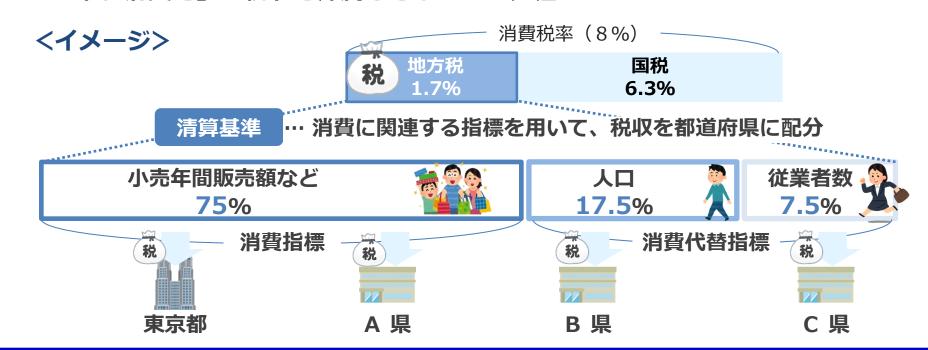


平成30年度税制改正において、地方消費税の清算基準を見直すことにより、

東京をはじめとする都市部の税収を奪い取ろうとする動きが活発化

地方消費税の清算基準とは

✓ 地方消費税を負担する消費者が、買い物などをした 「最終消費地」に税収を帰属させるための仕組み



平成30年度税制改正に向けた国の動き

✓ 消費に関する「統計」の比率を下げ、「人口」の比率を高める方向で検討

- **く財政制度等審議会**(平成29年10月) >-
- ▶ 人口基準の比率を大幅に高めるなど 抜本的に見直すべき

財務省

- **〈地方財政審議会**(平成29年11月) **〉**
- ▶ 一部業種を**統計から除外**し、**人口比率を高める**方向で検討すべき

総務省

報道ベースでは・・・

> 従業者数・統計を廃止し、年少・老年人口比率で配分

都税収入への影響(試算)

年間 ▲ 2,000億円程度

「うち都内自治体分 ▲1,000億円程度 〕

報道ベースでは・・・

▶ 従業者数を廃止し、人口と統計の比率を半々に

都税収入への影響(試算)

年間 ▲ 1,000億円程度

うち都内自治体分 ▲500億円程度

国の主張には多くの問題点がある

玉

✓ 税収の格差を清算基準 で調整すべき

- ✓ 最終消費地は、物品の 使用が行われた場所を 基準とすべき
- ✓ 代替指標は人口に一本化し、人口比率を引き上げるべき

NO!!



国の主張に異議あり!

都

地方消費税の応益性を歪める

最終消費地とは 「商品を購入した場所」 「人口」=「消費」 ではない



税収の格差は 交付税で調整されている 県境を越える消費は 全体の一部に過ぎない 「従業者数」も 必要な指標

など

反論の例① 地方消費税の応益性を歪める

国の主張

▶ 地方消費税は、税収の偏在是正や社会保障財源化の観点から、人口で配分すべき

東京都の主張

円滑な市場取引を支えるため

行政 行政サービスを提供



行政サービス

地方 消費税

対価として**地方消費税**を支払



消費者

NO!!



国の主張に異議あり!

税収を人口で配分するのでは、 譲与税と変わらない

税

大原則

国の主張は地方税の大原則である応益性を歪め、地方消費税を譲与税化することにほかならない

地方分権の流れにも 逆行します!



反論の例② 税収の格差は交付税で調整されている

NO!!

国の主張

▶住民一人当たりの地方税収は、最大県(東京都)と最小県とで2.5倍の「格差」がある

東京都の主張

全国平均と同水準

✓ 住民一人当たりの地方税収に
地方交付税を加えると…



国がいうところの「税収の格差」は、 国の制度(地方交付税)で既に調整されている 国は事実を 捻じ曲げています!

国の主張に

異議あり!

首都東京が取り組むべき課題

- ✓ 首都・東京は、将来にわたる膨大な財政需要を抱えている
- ✓ 東京の魅力・活力を底上げし、日本全体の成長につながる取組を着実に進める必要

<増加する財政需要>

<東京の魅力・活力の底上げ>

更に増加する

社会保障関係経費፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟



平成27年度単年度で **1** 兆円

平成50年度単年度で

1.7兆円

都民の命を守る 防災対策



直近10年間

1.9兆円

今後10年間見込

3.2兆円

世界に開かれた

国際観光都市の実現



平成28年 訪都外国人 **1,310**万人

平成32年 目標値

2,500万人

史上最高の

東京2020大会開催



全国に及ぶ経済波及効果 **32.3**兆円

全国税収効果 4.7兆円

うち都税 0.7兆円 うち国税 3.4兆円

更なる財源収奪は、

都民生活を脅かし、東京・日本の活力をそぐことになりかねない